

て補償されていることになる。

一方、アルドシナが、日本海を緯度・経度で2度ごとの区画に分けて行なった計算のうち、35~37°N・134~136°Eの区画の年間の収支量は、計算式の係数等の違いはあるが、約-25 Kcal/cm²・yearである。この区画は、山陰沖から若狭湾およびその北方海域を含み、対馬暖流の流路を含んでいる。そのため、年間では失う熱量が入り込む熱量よりも多い分が対馬暖流のもたらす熱で補償されていることになる。

4. あとがき

現在、日本近海に気象庁の海洋観測用パイロボットが展開されている。その開発段階で試作されたパイロボット2号機は、日本海に設置されて種々の成果を上げてきた。2号機の最後の観測資料をまとめるにあたり、これまでパイロボットの保守等に御協力をいただいた、舞鶴海洋気象台の海洋課ならびに清風丸の諸氏に感謝の意を表する。

文 献

赤松英雄, 1973: 日本海南部海域における冬期の海

洋・大気間の熱交換量について, 海と空, 48, 131~143.

橋本祐一, 1973: 若狭湾西部(丹後海)における海況の一般的特性, 海と空, 49, 69~84.

神戸・長崎・舞鶴各海洋気象台海上気象課, 気象研究所海洋研究部, 1975: 日本海西部海域における海気熱交換と海況の短期変動の研究, 気象庁研究時報, 27, 37~54.

Budyko, M.I., 1973: 気候と生命(上), 内嶋善兵衛・岩切敏訳, 東京大学出版会.

舞鶴海洋気象台海上気象課, 1972: 日本海の上気象, 気象庁技術報告, 80, 1~62.

舞鶴海洋気象台海洋課, 1974: 若狭湾(I), 沿岸海洋研究ノート, 11, 143~150.

—, 1974: 若狭湾(II), 沿岸海洋研究ノート, 12, 81~86.

—, 1975: 若狭湾(III), 沿岸海洋研究ノート, 12, 145~149.

—, 1976: 若狭湾(IV), 沿岸海洋研究ノート, 13, 45~47.

当舎万寿夫, 1973: 日本海における熱収支, 気象研究ノート, 115, 117~192.

Woodrow, C. Jacobs, 1942: On the Energy Exchange between Sea and Atmosphere, J. Mar. Res., V, 37~66.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
日本気象学会 昭和53年総会・春季大会	昭和53年 5月23日~25日	日本気象学会	気象庁
WMOシンポジウム「成層圏成分の変化に関する地球物理学的状態とその影響」	昭和53年 9月26日~30日	国際気象機構 WMO	トロント(ヨーク大学)
山の気象シンポジウム	昭和53年 6月17日		気象庁
第15回理工学における同位元素研究発表会	昭和53年 6月27日~29日		国立教育会館
第15回自然災害科学総合シンポジウム	昭和53年10月20日~21日		九州大学記念講堂